時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

第二千九百七十五號
明治廿四年三月卅一日 火曜日
舊暦辛卯二月廿二日（丙辰）
（西暦一千八百九十一年）

時事新報定價

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セス其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

○時事新報社ヨリ直ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日幷に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に郵便の實費を申受く可し

時事新報

株券をして公債證書の地位を得せしめよ

我輩は前號の紙上に於て日本銀行が利息引上策を行ひたらば如何との次第を述べたれども利息の割合を引上ぐれば政府公債證書の價の下落するは勿論、これが爲に最も困難なるは今の諸會社にして元來會社の營業は政府公債の五分利息を目安として收支の損益を算出したるものなれば五分の利息が遽に騰貴して八分以上一割ともなれば會社の株券は忽ち下落して非常に困難せざるを得ずとの反對論あるは我輩の最初より期する所にして此論に對しては亦自から說なきに非ず抑も政府が經濟社會に種々の人工を施し強て利息の割合を低下せしめ日本國不相應の現象を致したる其內實の目的は專ら公債證書の價格を維持する爲めに外ならざれども公債の價の高低は國の經濟に如何なる關係もある可らず或は其高低は以て政府の信用如何を卜するに足る可しとの說もあれども人工を以て強て其價を維持しながら政府の信用を云々するが如きは小兒を欺くの淺謀に過ぎざるのみ左れば金利騰貴すれば公債の下落するは勿論なりと雖も其下落は天然の下落にして經濟上毫も恐る可きものに非ざれば我輩は之を天然の成行に任するを以て寧ろ經濟の眞を得たるものなりと信ずるなり然らば則ち諸會社の始末は如何す可きやと云ふに元來彼の諸會社中には我輩の每度記載したる如く一時人爲の變相に乘じ恰も室の暖氣に欺かれて寒中に花を發したると同樣のものもなきにあらざれば室外の寒氣に觸るれば忽ち凋落を免れざること自然の結果として致方なけれども今や其凋落す可きものは早く既に凋落して恰も自然の淘汰を經たるの有樣なれば今日に生存する諸會社中には彼の室の早咲と同一視す可らざるもの亦甚だ少なからず殊に鐵道の如き航海業の如き其他目的の確實にして國家生產の爲めに發達擴張を要するものは政府の處置を一轉して間接に之を保護するの工風なきに非ず即ち其法は從前政府が公債證書庇護の小策よりして人民より官途に差入るゝ身元保證等は一切公債證書に限るの慣例を廢し之に代るに確實なる會社の株式を以てするか又は公債も株式も同樣に視做して身元保證等に通用せしむるの新例を作ることなり即ち政府の私に獨り公債證書を愛したる其愛を割て廣く諸會社に及ぼすことなれば會社の株券も之が爲めに自から光を生じて相應の相場を維持すること敢て難きに非ざる可し抑も身元保證金の如きは唯その確實なるを貴ぶ可きものにして公債なり株券なり敢て其種類を問ふ可きに非ず自家の製造品に非ざれば其確實を保證すること能はずと云ふが如きは不通の私見たるを免れざるものにして我輩の取らざる所なり今の株券中にても鐵道會社の如き又郵船會社の如き既に鐵道汽船の實物を備ふる其上に乘客荷物の數も確かにして日本の事業中最も確實なる者なれば之を身元保證金の代用として何等の差支ある可きや或は其確實なると否とを識別するの明なしと云ふか我輩は政府會計部の人の爲めに之を慚る者なり左れば金利の引上策を行ふと同時に公債證書の價格は天然の下落に任じて之を顧みず從來身元保證金等に公債を用ゐたる場合には確實なる會社の株券をも代用し又日本銀行の擔保品の如きも從來時價以下の定めあるを更に改正して相應の價を付するに至るときは金利の割合は一般に低下して公債證書の如きは六十圓臺に下落すと雖も鐵道郵船等の如き確實なる會社の株券は相應の價格を維持して必ずしも實業社會に慘狀を見ることなかる可きなり

官報

朕明治六年大藏省達第百六十一號及明治二十二年閣令第四號廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治廿四年三月廿八日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二十七號

明治六年大藏省達第百六十一號及明治二十二年閣令第四號ハ本年三月三十一日限リ廢止ス但宿直又ハ徹夜勤務使役ノ者ニハ適宜食料（現品又ハ代料）ヲ給與シ又特別用ノ文具ハ官廳ニ備ヘテ使用セシムルコトヲ得

勅令第二十七號參照

明治六年大藏省達第百六十一號ハ辨當料改定ノ件同二十二年閣令第四號ハ文具料支給規則ナリ

雜報

○正誤 左の申込ありたれば前報を是正す

三月廿二日貴紙雜報欄內福岡通信中（三月十五日發）末項深井銀行に係る記事の末文九州鐵道會社に於ても調停者の爲すに一任すべしと云ひ又斷然裁判を仰ぐべしとの二說ありと有之は事實甚しき相違にして且つ河上庶務課長と奧井運輸課長との軋轢最も甚しく河上氏近來病と稱して引籠中なり云々は勿論其以下記載の義も事實無根に有之候條至急此全文を掲げ御正誤相成度候也

福岡縣博多 九州鐵道會社

時事新報社記者 御中

○府會議員の補欠撰擧 神田麻布の兩區に府會議員各一人の補欠撰擧あり撰擧會は來る五月一日午前七時兩區役所に開き投票函は同午前十一時に閉鎖す

○空中旅行船 米國シカゴ府發の近報に據ればペユントン氏の發明したる空中旅行船の模形は去る一月十六日マウント、カーメル府よりシカゴに廻送し同府に開設の筈なる世界大博覽會へ出品せんとて籌方中なりさて此空中旅行船を所有する者はペユントン、バットラーの兩氏にして兩氏共に奔走盡力して數多の資本家を募り空船製造の計畫を實行せんとしマウント、カーメル空中旅行船製造會社として知られたる一會社は既に二千萬弗の資本金を以て設立の運びに至り社員を除くの外何人なりとも株券を所有するを許されず今や該船の製造の爲めマウント、カーメル府に八百二十方呎の家屋を築造せんとせり其社員はペユントン、バットラー兩氏の外にミシガンのデウェー氏英國マンチェスターの製造家チャムバリン氏、ビユー氏を始め富豪なる人々にして此計畫に關係わる者は皆論理家に非ず之を以て金儲をなさんと豫期し必要なる資本を用意せり右の空船を發明したるペユントン氏は本年卅五歲の熱心なる人物にして總て空想を排斥し事實に應用し得る理論を信ずるものなるが氏の言を聞くに吾人は此器械の効力を現はすと同時に郵便物を運送するの契約を爲し得る保證を得たり既に若干の鐵道家は吾人に對して競爭中なれ共吾人は敢て之に頓着せず吾人は數百萬金を有するが故に他人の補助を要求するに及ばず萬一不幸にして此器械が其功を奏せずとするも資金を投せし人々の外何人も害を蒙らざるべしと次にデウェー氏の話に從へば此計畫は世界に於て眞に最も簡單にして最も實行し得べき事柄なり其成功の曉には世界の事物を一變せしむること鐵道、電線の比に非ず吾人は既に華盛頓府の遞信省に照會の上吾空中旅行船が今日の郵便運送汽車よりも一層迅速に進行する事を證明したるに直ちに郵便物を吾空船に托するの保證を得たり今より遠からずして當國の市民は土曜日の夜空船に乘じて歐洲大陸に赴き日曜日を愉快に暮し月曜日の朝歸國するを得るに至るべしと云へり

○横濱の絲況 横濱の絲況は昨今少しく回復の景況を呈し外國爲換相場は其の後漸々下向となり昨年相場激變前と敢て懸隔なきに至りしかば外商も稍や安心の趣にて各商館買氣を增したる折柄去る二十五日は兼て安直を窺ひ居たる百九十八番が茲ぞ最早買入時との見當を定めたるにや例の投機流の買入を始め信州器械絲一千餘個を一口に約定し續て甲九十番も買氣を現して買ひ立てたれども百九十八番の機敏なる買入に出し拔かれ少しく出後れの模樣にて思ふ儘に買入の出來ざりしは遺憾の樣子なりしが是れ亦相應の買付を爲し其他一番、二番、百七十七番、九十五番等の諸館も買進みて廿五日は都合一千九百餘個の大手合出來せり賣方は此の調子に連れ幾分か高値の賣控への氣味を生じたれば二十六日は前日より幾分か後戻りの市況を呈したれど倚ほ前日の餘燼として市況も動き遂に九百餘個の手合出來し在荷は愈々減じて一萬の下に潛り八千九百餘個となりたり是に於て內商も一般強氣に傾き勢ひ相場も五、七弗より品に依りては十弗方の上進となり二十七、二十八の兩日も相應の手合ありて信州器械絲北振館五百七十弗即日納めとあり同伊那社六百弗、明十社等各六百弗の手合となり其他坐繰絲掛田絲等も可なり賣行きグッド フライデーにて外國銀行は二日間休業せしにも拘はらず來月一日は歐米の出帆船あれば鐵船積込を當てに各館買入を休まずして一昨廿九日の日曜日迄は同樣の景況なりし而して今回の變動に付ては其原因も種々ありて或は廣東市場在荷の減少を告げたるを以て米國の絲商が見込を付け横濱に向け注文を發したりとも云ひ又は横濱の在荷も漸々減少せし際兼て相場も漸

く賣崩し
爲換相場
郵船の出
買を始め
きも後說
會社へ着
にあり）
に依て見
て實行き
疑ひあき
めば今回
機買に出

○小縣蠶
濃蠶種組
より檢查
が其檢查
製三萬七
は三千四
が爲めに
女五十八
に千二百
成蹟表は

種類	春	夏	秋	通
成蹟	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

種類	春	夏	秋	通
成蹟	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

之を前年
しと雖も
一倍の增
候殊の外
豫防かた